

小山剛教授略歴

略歴

- 一九六〇年 東京都生まれ
- 一九七九年 慶應義塾高等学校卒業
- 一九八四年 慶應義塾大学法学部法律学科卒業
- 一九八六年 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了
- 一九八七年 ドイツ・ケルン大学留学（ドイツ学術交流会（DAAD）奨学生）（一九八九年）
- 一九九〇年 慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学
- 二〇〇五年 博士（法学）（慶應義塾大学）
- 一九九〇年 愛知県立女子短期大学兼愛知県立大学文学部講師
- 一九九三年 名城大学法学部講師
- 一九九四年 名城大学法学部助教授
- 二〇〇一年 フライブルク大学客員教授（同年）
- 二〇〇二年 慶應義塾大学法学部助教授
- 二〇〇四年 慶應義塾大学大学院法務研究科（兼法学部）教授（二〇一二年）

二〇〇四年

慶應義塾大学法学部教授

委員歴

二〇〇九年

BPO (放送倫理・番組向上機構) 放送人権委員会委員 (二〇一五年)

二〇〇九年

防衛施設中央審議会委員 (二〇一七年)

二〇一七年

国家公務員採用総合職試験 (院卒者試験) 試験専門委員 (現在に至る)

二〇一七年

司法試験考查委員及び司法試験予備試験考查委員 (二〇二〇年)

二〇二五年

旧優生保護法問題検証会議 (現在に至る)

受賞歴

一九九九年

田上穰治賞 (比較憲法学会) 『基本権保護の法理』成文堂、一九九八年

小山剛教授主要業績

一 著書

単 著

『憲法上の権利』の作法』(尚学社、第三版二〇一六年、新版二〇一一年、初版二〇〇九年)

「(閔炳老訳)『헌법상의 권리 작업』(전남대학교출판문화원、韓国、新版二〇一九年〈初版二〇一三年〉)

『基本権の内容形成——立法による憲法価値の実現』(尚学社、二〇〇四年)

『基本権保護の法理』(成文堂、一九九八年)

「(吴东镐・崔东日訳)『基本権保护的法理』(中国政法大学出版社、中国、二〇二一年)

共編著

小山剛・鈴木秀美・毛利透編集代表『ドイツ基本権裁判の展開』(信山社、二〇二五年)

工藤達朗・小山剛・武市周作編『憲法裁判の制度と実践』(尚学社、二〇二三年)

小山剛・伊川正樹・渡邊互編『立憲国家の制度と展開——網中政機先生喜寿記念』(尚学社、二〇二一年)

小山剛・川崎政司・渡井理佳子編『判例から学ぶ憲法・行政法』(法学書院、第五版二〇二二年〈初版二〇〇七年

〔初版〕第四版は川崎政司・小山剛編〕)

- 小山剛Ⅱ新井誠編『イレズミと法——大阪タトゥー裁判から考える』(尚学社、二〇二〇年)
- 小山剛Ⅱ新井誠Ⅱ横大道聡編『日常のなかの「自由と安全」——生活安全をめぐる法・政策・実務』(弘文堂、二〇二〇年)
- ドイツ憲法判例研究会編(小山剛編集代表)『憲法の規範力と市民法(講座 憲法の規範力 第三卷)』(信山社、二〇二〇年)
- 棟居快行Ⅱ工藤達朗Ⅱ小山剛編『判例トレーニング憲法』(信山社、二〇一八年)
- 工藤達朗Ⅱ西原博史Ⅱ鈴木秀美Ⅱ小山剛Ⅱ毛利透Ⅱ三宅雄彦Ⅱ斎藤一久編集『憲法学の創造的展開——戸波江二先生古稀記念(上巻・下巻)』(信山社、二〇一七年)
- 鈴木秀美Ⅱマティアス・イエシュテットⅡ小山剛Ⅱラルフ・ポッシャー編集『憲法の発展——日独憲法対話 2015』(信山社、二〇一七年)
- 小山剛Ⅱ畑尻剛Ⅱ土屋武編『判例から考える憲法』(法学書院、二〇一四年)
- 安念潤司Ⅱ小山剛Ⅱ青井未帆Ⅱ穴戸常寿Ⅱ山本龍彦編著『論点 日本国憲法——憲法を学ぶための基礎知識』(東京法令出版、第二版二〇一四年〈初版二〇一〇年〉)
- 小山剛Ⅱ駒村圭吾編『論点探究 憲法』(弘文堂、第二版二〇一三年〈初版二〇〇五年〉)
- 小山剛Ⅱ玉井真理子編『子どもの医療と法』(尚学社、第二版二〇一二年〈初版二〇〇八年〉)
- 棟居快行Ⅱ工藤達朗Ⅱ小山剛編集代表『プロセス演習 憲法』(信山社、第四版二〇一一年〈初版二〇〇四年〉)
- 「(閔炳老Ⅱ孫亨燮訳)『일본관례연습』(전남대학교출판문화원, 韓国、二〇一一年)
- 大沢秀介Ⅱ小山剛編『自由と安全——各国の理論と実務』(尚学社、二〇〇九年)
- 小山剛Ⅱ山本龍彦Ⅱ新井誠編『憲法のレシピ』(尚学社、二〇〇七年)
- 大沢秀介Ⅱ小山剛編『東アジアにおけるアメリカ憲法——憲法裁判の影響を中心に(慶應義塾大学東アジア研究所叢書)』(慶應義塾大学出版会、二〇〇六年)

大沢秀介＝小山剛編『市民生活の自由と安全——各国のテロ対策法制』（成文堂、二〇〇六年）

井上典之＝山元一＝小山剛編『憲法学説に聞く』（日本評論社、二〇〇四年）

池田真朗＝宮島司＝安富潔＝三上威彦＝三木浩一＝小山剛＝北澤安紀編集代表『法学六法'08～'26』（信山社、二〇〇八年～二〇二五年）¹⁰⁸、¹⁶の編集代表は石川明＝池田真朗＝宮島司＝安富潔＝三上威彦＝大森正仁＝三木浩一＝小山剛（）

石川明＝池田真朗＝宮島司＝安富潔＝三上威彦＝大森正仁＝三木浩一＝小山剛編集代表『標準六法'09～'15』（信山社、二〇〇八年～二〇一四年）

翻訳書

ライナー・ヴァール（小山剛＝石塚壮太郎監訳）『ドイツ憲法の道程』（慶應義塾大学出版会、二〇二二年）

ライナー・ヴァール（小山剛監訳）『憲法の優位（慶應義塾大学法学研究会叢書84）』（慶應義塾大学法学研究会、二〇二二年）

クラウス・シュテルン（赤坂正浩＝片山智彦＝川又伸彦＝小山剛＝高田篤編訳）『シュテルン ドイツ憲法Ⅰ 総論・統治編』（信山社、二〇〇九年）

二 論文

単 著

「基本権解釈の発展と連邦憲法裁判所」小山剛＝鈴木秀美＝毛利透編集代表『ドイツ基本権裁判の展開』（信山社、二〇二五年） 五頁

「保護領域、正当化、価値充填——個人の尊厳と平等・再考」有斐閣 Online ロージャーナル（二〇二五年）

- 「海外渡航の自由と旅券発給拒否——ドイツ法からの示唆」法律時報九六卷五号 (二〇二四年) 五七頁
- 「妊娠中絶とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ——ドイツの憲法論を中心に」法律時報九六卷四号 (二〇二四年) 一〇頁
- 「憲法上の権利の制限と内容形成——夫婦同氏制を例に」法学研究九七卷二号 (河野武司教授退職記念号) (二〇二四年) 一頁
- 「憲法上の個人情報保護についての基本的な考え方」青井未帆・新井誠・尾形健・村山健太郎編『現代憲法学の理論と課題——野坂泰司先生古稀記念』(信山社、二〇二三年) 一八九頁
- 「連邦憲法裁判所における萎縮効果論」工藤達朗・小山剛・武市周作編『憲法裁判の制度と実践』(尚学社、二〇二三年) 二六二頁
- 「コメント 地裁判決を読んで」刑事弁護一一三三号 (二〇二三年) 一〇三頁
- 「職業の自由と医行為」年報医事法学三七号 (二〇二二年) 五三頁
- 「比較衡量／総合的考慮論と審査基準論」判例時報二五〇六・二五〇七号 (二〇二二年) 二一〇頁
- 「優生手術と国家賠償」小山剛・伊川正樹・渡邊互編『立憲国家の制度と展開——網中政機先生喜寿記念』(尚学社、二〇二二年) 二九三頁
- 「コロナ禍の自由と安全」法律時報九三卷一三三三号 (二〇二一年) 一頁
- 「『三段階審査』論」立命館法学三九三・三九四号 (市川正人教授 駒林良則教授 退職記念論文集) (二〇二一年) 二一〇二頁
- 「経済的自由の環境変化と憲法学」論究ジュリスト三六号 (二〇二一年) 七六頁
- 「脱原発と財産権」山下竜一編『原発再稼働と公法』(日本評論社、二〇二一年) 三三頁
- 「自粛・補償・公表——インフォーマルな規制手法」判例時報二四六〇号 (二〇二〇年) 一四五頁
- 「憲法にとって私法はどこまで特殊か」ドイツ憲法判例研究会編(小山剛編集代表)『憲法の規範力と市民法』(講座

憲法の規範力 第三卷』（信山社、二〇二〇年）九頁

「職業と資格——彫師に医師免許を要求することの憲法適合性」小山剛・新井誠編『イレズミと法——大阪タトゥー裁判から考える』（尚学社、二〇二〇年）一四七頁

「監視と萎縮——基本権侵害の『水平的加算』序説」憲法研究六号（二〇二〇年）一一一頁

「憲法上の権利の私人間効力」法学教室四五二号（二〇一八年）三〇頁

「職業と資格——彫師に医師免許は必要か」判例時報二三六〇号（二〇一八年）一四一頁（毛利透・木下智史・小山剛・棟居快行『憲法訴訟の実践と理論』（判例時報社、二〇一九年）二四九頁、人権法評論（全南大校公益人權法センター）一三三号（韓国、二〇一九年）二二五頁再掲）

「脱原発と財産権」法律時報九〇巻一号（二〇一八年）九五頁

「転換点としてのGPS捜査判決？」法学研究九一卷一号（大沢秀介教授退職記念号）（二〇一八年）一頁

「第22条」辻村みよ子・山元一編『概説 憲法コンメンタール』（信山社、二〇一八年）一四二頁

「エバーハルト・グラビッツの基本権論」工藤達朗・西原博史・鈴木秀美・小山剛・毛利透・三宅雄彦・斎藤一久編

集『憲法学の創造的展開——戸波江二先生古稀記念（上巻）』（信山社、二〇一七年）二四三頁

「第三者行為論と国の基本権保護義務」判例時報二三四一号（二〇一七年）一四一頁（毛利透・木下智史・小山剛・

棟居快行『憲法訴訟の実践と理論』（判例時報社、二〇一九年）一四一頁再掲）

「自衛隊情報保全事件控訴審判決」判例時報二三二八号（二〇一七年）三頁（毛利透・木下智史・小山剛・棟居快行『憲法訴訟の実践と理論』（判例時報社、二〇一九年）四七頁再掲）

「憲法改正と環境条項」日本法學八二巻三号（百地章教授古稀記念号）（二〇一六年）一七一八頁

「自由と安全——日本の状況と課題」警察政策研究一九号（二〇一六年）一八二頁

「平和主義と憲法改正」法學論叢（全南大校法學研究所）三六巻四号（韓国、二〇一六年）九五頁

「憲法判例の現状と憲法学説の課題」公法研究七七号（二〇一五年）五〇頁

- 「憲法上の権利」各論 20・最終回 財産権 (2・完) 法学セミナー七二八号 (二〇一五年) 七九頁
- 「憲法上の権利」各論 19 勤労の権利、労働基本権 (2・完・財産権 (1)) 法学セミナー七二七号 (二〇一五年) 八七頁
- 「憲法上の権利」各論 18 勤労の権利、労働基本権 (1) 法学セミナー七二六号 (二〇一五年) 八二頁
- 「憲法上の権利」各論 17 教育を受ける権利、義務教育等 法学セミナー七二五号 (二〇一五年) 七八頁
- 「憲法上の権利」各論 16 生存権 (2) 法学セミナー七二四号 (二〇一五年) 七一頁
- 「憲法上の権利」各論 15 学問の自由 (2・完、生存権 (1)) 法学セミナー七二三号 (二〇一五年) 八一頁
- 「憲法上の権利」各論 14 学問の自由 (1) 法学セミナー七二二号 (二〇一五年) 六八頁
- 「私法の自律性と憲法上の権利」法学研究八八巻一号 (池田真朗教授退職記念号) (二〇一五年) 一七七頁
- 「自由と安全」日本の状況と課題 警察学論集六八巻六号 (二〇一五年) 六九頁
- 「違憲審査の思考枠組み」月報司法書士五一九号 (二〇一五年) 四頁
- 「なぜ『情報自己決定権』か」全国憲法研究会編『日本国憲法の継承と発展』(三省堂、二〇一五年) 三二〇頁
- 「BPO放送人権委員会——任期を終えて」ドイツ憲法判例研究会編(鈴木秀美編集代表)『憲法の規範力とメディア法』(講座 憲法の規範力第四巻) (二〇一五年) 一七頁
- 「取材の自由」小山剛 畑尻剛 土屋武編『判例から考える憲法』(法学書院、二〇一四年) 一頁、「民法九〇〇条四号ただし書の適用違憲」同二二二頁
- 「基本的人権とは何か」安念潤司 小山剛 青井未帆 宍戸常寿 山本龍彦編著『論点 日本国憲法——憲法を学ぶための基礎知識(第二版)』(東京法令出版、二〇一四年) 四二頁 (初版二〇一〇年四四頁)、「メディアの公共性——報道の自由の意義と取材の自由」同八八頁 (初版九〇頁)、「メディアによる人権侵害——表現の自由とプライバシー」同九二頁 (初版九四頁)、「集まる場所があつてこそ『集会の自由』——泉佐野事件」同一一〇頁 (初版一〇〇頁)、「経済的自由とは何か——経済的自由の歴史と変容」同二六頁 (初版二六頁)、「やりたい

仕事ができる社会——職業の自由の意義、規制目的と規制の態様」同一二八頁（初版一二八頁）、「積極目的と消極目的——規制二分論の意義と限界」同一三〇頁（初版一三〇頁）、「市場にはどの程度の規制が必要か——規制緩和と規制の再強化」同一三二頁（初版一三二頁）、「自由と生存——社会権の思想と内容」同一四二頁（初版一四二頁）、「健康で文化的な最低限度の生活——生存権(1)」同一四四頁（初版一四四頁）、「生存権をめぐるそのほかの裁判——生存権(2)」同一四六頁（初版一四六頁）、「少子高齢社会の社会保障——年金改革」同一六二頁（初版一六二頁）

「Nシステム訴訟」川崎政司＝小山剛編『判例から学ぶ憲法・行政法（第四版）』（法学書院、二〇一四年）三四頁（第三版）二〇一一年三四頁

「比例原則と猿払基準」法学研究八七巻二号（小林節教授退職記念号）（二〇一四年）二九頁

「憲法上の権利」各論13 職業の自由・移動の自由（2・完）「法学セミナー七二〇号（二〇一四年）七八頁

「憲法上の権利」各論12 集会・結社の自由（3・完）、職業の自由・移動の自由（1）「法学セミナー七一九号（二〇一四年）六五頁

「憲法上の権利」各論11 集会・結社の自由（2）「法学セミナー七二七号（二〇一四年）六六頁

「憲法上の権利」各論10 集会・結社の自由（1）「法学セミナー七一六号（二〇一四年）六八頁

「憲法上の権利」各論09 表現の自由（5・完）「法学セミナー七一五号（二〇一四年）九六頁

「憲法上の権利」各論08 表現の自由（4）「法学セミナー七一四号（二〇一四年）七二頁

「憲法上の権利」各論07 表現の自由（3）「法学セミナー七一二号（二〇一四年）七二頁

「憲法上の権利」各論06 表現の自由（2）「法学セミナー七一十一号（二〇一四年）八二頁

「憲法上の権利」各論05 表現の自由（1）「法学セミナー七一〇号（二〇一四年）四二頁

「憲法上の権利」各論04 信教の自由および政教分離（2）「法学セミナー七〇八号（二〇一三年）四三頁

「憲法上の権利」各論03 信教の自由および政教分離（1）「法学セミナー七〇七号（二〇一三年）四九頁

- 「憲法上の権利」各論02 思想および良心の自由(2)『法学セミナー』七〇六号(二〇一三年) 四一頁
- 「憲法上の権利」各論01 思想および良心の自由(1)『法学セミナー』七〇五号(二〇一三年) 四三頁
- 「比例原則と衡量」長谷部恭男・安西文雄・宍戸常寿・林知更編『現代立憲主義の諸相——高橋和之先生古稀記念(下巻)』(有斐閣、二〇一三年) 一一五頁
- 「間接的ないし事実上の基本権制約」中央大学法学新報二二〇巻一・二二〇巻二(長尾一紘教授古稀記念論集)(二〇一三年) 一五五頁
- 「田村警察行政法学——憲法学の視点から」大沢秀介・佐久間修・荻野徹編『社会の安全と法』(立花書房、二〇一三年) 二二頁
- 「国家目的と国家目標規定」小山剛・駒村圭吾編『論点探究 憲法(第二版)』(弘文堂、二〇一三年) 一三頁(初版二〇〇五年一一頁)、「権利の保障と制度の保障」同四六頁(初版四二頁)、「経済的自由の限界」同二四頁(初版一九二頁)、「地方自治の本旨」同三七三頁(初版三三二頁)
- 「米びつと震災——憲法学からの一考察」自治研究八九巻二号(二〇一三年) 三頁
- 「『社会国家』と憲法解釈」小谷順子・新井誠・山本龍彦・葛西まゆこ・大林啓吾編『現代アメリカの司法と憲法——理論的対話の試み』(尚学社、二〇一三年) 一七六頁
- 「憲法上の枠組み」小山剛・玉井真理子編『子どもの医療と法(第二版)』(尚学社、二〇一二年) 七二頁(初版二〇〇八年六一頁)
- 「最高裁判所は変わったか?」(二〇一一年憲法記念講演会)『憲法問題』二三号(二〇一二年) 一三五頁
- 「単純個人情報保護の憲法上の保護(住基ネット訴訟)」『論究ジュリスト』一号(二〇一二年) 一一八頁(長谷部恭男編『論究憲法——憲法の過去から未来へ』(有斐閣、二〇一七年) 二二五頁再掲)
- 「震災と基本権保護義務」法学教室三七二号(二〇一一年) 四頁
- 「第3章 国民の権利及び義務 総説」芹沢斉・市川正人・阪口正二郎編『新基本法コンメンタール』(日本評論社、

二〇一一年）六九頁

「震災と財産権」ジュリスト一四二七号（二〇一一年）六五頁

「憲法の学び方と論じ方」法学セミナー六七八号（二〇一一年）二頁

「違憲審査論の現在——特集のはじめに」法律時報八三卷五号（二〇一一年）四頁

「生存権の『制度後退禁止』？」慶應法学一九号（二〇一一年）九七頁

「憲法は私法をどこまで縛るのか——憲法の優位と私法の独自性」新世代法政策学研究（北海道大学）一一号（二〇一一年）二三頁

一一年）二三頁

「（牟宪魁『郭娜娜訳』）「宪法在何种程度上约束私法——宪法的优位与私法的独特性」师大法学（华东师范大学法学院）二〇一九年一辑（中国、二〇一九年）三頁

「基本権保護義務論と国際人權規範」国際人權法学会報二二号（二〇一一年）四一頁

「憲法上の権利か『自然権』か」法律時報八二卷五号（二〇一〇年）五六頁

「『安全』と情報自己決定権」法律時報八二卷二号（二〇一〇年）九九頁（辻村みよ子『長谷部恭男編『憲法理論の再創造』（日本評論社、二〇一一年）三八一頁再掲）

「（吳东镐訳）「现代社会的信息公开法——『安全』与信息自我決定权」王貴松主編『宪政与行政法治评论 第六卷』（中国人民大学出版社、中国、二〇一二年）一頁

「非嫡出子の法定相続分規定の合憲性」松本恒雄『潮見佳男編『判例プラクティス民法Ⅲ 親族・相続』（信山社、二〇一〇年）一三三頁

「im Rahmen des Rechtsstaates* ——『法治国家の枠内において』大沢秀介『小山剛編『自由と安全——各国の理論と実務』（尚学社、二〇〇九年）二二七頁

「民法学からの問題提起と憲法学からの応答——基本権の内容形成論からの応答」法律時報八一卷五号（二〇〇九年）九頁

- 「私人間効力」を論ずることの意義」法学研究八二巻一号（二〇〇九年）一九七頁
- 「憲法上の概念としての『安全』」慶應義塾大学法学部編『慶應の法律学 公法Ⅰ——慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集』（慶應義塾大学法学部、二〇〇八年）三二五頁
- 「人権の私人間効力」杉原泰雄編『新版 体系憲法事典』（青林書院、二〇〇八年）四〇七頁
- 「基本権保護義務論」『憲法の争点（新・法律学の争点シリーズ3）』（有斐閣、二〇〇八年）八六頁
- 「企画の趣旨——Quo Vadis 法科大学院教育」法学セミナー六四七号（二〇〇八年）一一頁
- 「国家の基本権保護義務」憲法理論研究会編『憲法変動と改憲論の諸相』（敬文堂、二〇〇八年）一四五頁
- 「監視国家と法治国家」ジュリスト一三五六号（二〇〇八年）四八頁
- 「陰画としての国家」法学研究八〇巻一二号（二〇〇七年）一四三頁
- 「ドイツの憲法変動——9・11の前と後」憲法理論研究会編著『憲法の変動と改憲問題』（敬文堂、二〇〇七年）一一三頁
- 「人権と制度」『人権論の新展開（岩波講座 憲法2）』（岩波書店、二〇〇七年）四九頁
- 「新しい人権」の議論が低調だった理由——求められる憲法観についての自覚的な議論と選択」新聞研究六七三号（二〇〇七年）一八頁
- 「法治国家における自由と安全」村上武則・高橋明男・松本和彦編『法治国家の展開と現代的構成——高田敏先生古稀記念論集』（法律文化社、二〇〇七年）二四頁
- 「名誉・プライバシー」小山剛・山本龍彦・新井誠編『憲法のレシビ』（尚学社、二〇〇七年）一九頁、「選挙権と選挙制度」同一六一頁
- 「国家の基本権保護義務」芹田健太郎・棟居快行・薬師寺公夫・坂元茂樹編『国際人権法と憲法（講座 国際人権法1）』（信山社、二〇〇七年）二二三頁
- 「監視社会」の基本権問題」法律時報編集部編『新たな監視社会と市民的自由の現在——国公法・社会保険事務所職

員事件を考える』(日本評論社、二〇〇六年) 七頁

「公法学の教育素材」公法研究六八号(二〇〇六年) 八一頁

「財産権の保障」大沢秀介・小山剛編『東アジアにおけるアメリカ憲法——憲法裁判の影響を中心に』(慶應義塾大学出版会、二〇〇六年) 三七五頁

「戦略的監視」と情報自己決定権——ByutGE 100, 33を中心——法学研究七九卷六号(二〇〇六年) 一頁

「69条 衆議院の内閣不信任と解散または総辞職」小林孝輔・芹沢斉編『基本法コンメンタール「第五版」』(日本評論社、二〇〇六年) 三二八頁

「70条 内閣総理大臣の欠缺、新国会の召集と内閣総辞職」小林孝輔・芹沢斉編『基本法コンメンタール「第五版」』(日本評論社、二〇〇六年) 三三三頁

「71条 総辞職後の内閣の職務の執行」小林孝輔・芹沢斉編『基本法コンメンタール「第五版」』(日本評論社、二〇〇六年) 三三四頁

「自由・テロ・安全——警察の情報活動と情報自己決定権を例に」大沢秀介・小山剛編『市民生活の自由と安全——各国のテロ対策法制』(成文堂、二〇〇六年) 三〇五頁

「法科大学院で学ぶ憲法第9条」法学セミナー六二二号(二〇〇五年) 二四頁

「自由と安全——若干の憲法学的考察」警察学論集五八卷六号(二〇〇五年) 七九頁

「日本におけるドイツ基本権論」日本台湾法律家協会雑誌五号(二〇〇五年) 六九頁

「自己情報コントロール権」月報司法書士四〇二号(二〇〇五年) 二六頁

「制度的保障」法学セミナー六〇五号(二〇〇五年) 一六頁

「基本権の私人間効力・再論」法学研究七八卷五号(田口精一先生追悼論文集)(二〇〇五年) 三九頁(ドイツ憲法判例研究会編(小山剛編集代表)『憲法の規範力と市民法「講座 憲法の規範力 第三巻」』(信山社、二〇二〇年)

六七頁再掲)

「新しい人権」ジュリスト二二八九号(二〇〇五年) 九五頁

「財産権の内容形成」寺田友子編『現代の行政紛争——小高剛先生古稀祝賀』(成文堂、二〇〇五年) 三〇三頁

「市民生活における自由と安全」現代思想三二卷一二号(二〇〇四年) 一一六頁

「生存権——生活保護基準額の見直し」法学セミナー五九三号(二〇〇四年) 二二頁

「表現の自由の保護領域——基本権の区分に関する一考察」法学研究七七卷二号(二〇〇四年) 一頁

「演習 憲法 2——参議院の議員定数不均衡」法学教室二八二号(二〇〇四年) 一一五頁

「演習 憲法 2——実体的評価規範(憲法)と救済規範(国賠法1条)とのズレ」法学教室二八一号(二〇〇四年) 一

五三頁

「演習 憲法 2——選挙権と選挙制度の区別」法学教室二八〇号(二〇〇四年) 一一九頁

「演習 憲法 2——地域自治会の性格」法学教室二七九号(二〇〇三年) 一三五頁

「演習 憲法 2——定住外国人の公務就任権」法学教室二七八号(二〇〇三年) 一二五頁

「演習 憲法 2——規制目的二分論の意義と射程」法学教室二七七号(二〇〇三年) 一〇七頁

「演習 憲法 2——名誉棄損的表現に対するプロバイダーの関与」法学教室二七六号(二〇〇三年) 九七頁

「演習 憲法 2——一般的自由説と人格的自由説」法学教室二七五号(二〇〇三年) 一二〇頁

「演習 憲法 2——『時の経過』の意味」法学教室二七四号(二〇〇三年) 一二一頁

「演習 憲法 2——自己情報コントロール権とプライバシー(侵害)三要件」法学教室二七三号(二〇〇三年) 一二〇頁

「演習 憲法 2——抽象的権利と制度的保障」法学教室二七二号(二〇〇三年) 一二〇頁

「演習 憲法 2——抽象的権利と具体的権利」法学教室二七一号(二〇〇三年) 一三〇頁

「基本権の内容形成——概念と類型」樋口陽一・上村貞美・戸波江二編『日独憲法学の創造力——栗城壽夫先生古稀

記念(上巻)』(信山社、二〇〇三年) 一五三頁

- 「人権擁護立法の意義と課題」憲法問題一四号（二〇〇三年）五一頁
- 「私的自治と人権」ジュリスト一二四四号（二〇〇三年）八三頁
- 「ドイツにおける国民保護法制」法律時報七四卷一二号（二〇〇二年）二〇頁
- 「立法政策と基本権保護義務」桜井雅夫編『EU法・ヨーロッパ法の諸問題』—石川明教授古稀記念論文集』（信山社、二〇〇二年）二二一頁
- 「環境保護と国家の基本権保護義務」ドイツ憲法判例研究会編『未来志向の憲法論』（信山社、二〇〇一年）一八七頁
- 「基本権的自由と法制度——峻別思考と非分別思考のはざままで」名城法学五〇巻別冊（二〇〇〇年）八一頁
- 「取材源の秘匿——取材源秘匿権と憲法21条」法学教室二二六号（二〇〇〇年）一八頁
- 「震災と国家の責務」公法研究六一号（一九九九年）一九六頁
- 「私人間における権利の保障」『憲法の争点（第三版）（法律学の争点シリーズ2）』（一九九九年）五四頁
- 「基本法下におけるドイツ基本権論の展開」比較憲法学研究一〇号（一九九八年）三三頁
- 「基本権保護と自己決定」名城法学四七号一卷（一九九七年）二二頁
- 「震災による財産被害と個人補償」法学セミナー五〇三号（一九九六年）六六頁
- 「制度的基本権理論、その後」ジュリスト一〇八九号（一九九六年）六五頁
- 「基本権保障における過少保護禁止の原則」法学研究六八号二二卷（一九九五年）五二七頁
- 「契約自由と基本権」名城法学四五号二卷（一九九五年）五七頁
- 「国の『基本権保護義務』」憲法理論研究会編『人権保障と現代国家』（敬文堂、一九九五年）三七頁
- 「一般的行為自由説をめぐる諸問題」『法と正義』編集委員会編『法と正義——田上穰治博士追悼論文集』（比較憲法学会、一九九三年）六七三頁
- 「妊娠中絶立法と基本権（胎児生命）保護義務——ドイツ『妊婦及び家族扶助法』をめぐる憲法論を素材に」名城法学四三号一・二卷（一九九三年）一三七頁

「私法関係における基本権の保護——基本権の私人間効力と国の保護義務」法学研究六五号八卷（一九九二年）二三頁

「基本権の客観法的側面をめぐる諸問題——ドイツの判例・学説を中心に」比較法研究五三号（一九九一年）一五二頁

「夫婦の氏と憲法——ドイツ連邦憲法裁判所 1991 年 3 月 5 日決定を中心に」愛知県立大学文学部論集一般教育編四〇号（一九九一年）七七頁

「西ドイツにおける国の基本権保護義務」法学研究六三号七卷（一九九〇年）五四頁

「ドイツ基本権解釈論における国の保護義務——社会権・防禦権と保護義務」法学政治学論究（慶應義塾大学）七号（一九九〇年）四一頁

「基本権の機能の拡充の可能性——ドイツにおける議論を素材として」慶應義塾大学大学院法学研究科論文集二五号（一九八七年）二一七頁

「社会生活における基本権の実効的保障——P・ヘーベルレを中心に」（慶應義塾大学修士学位論文、一九八五年）

外国語論文

Horizontale Geltung der Grundrechte und Selbständigkeit des Gesetzesrechts, in: Matthias Jestaedt/Hidemi Suzuki (Hrsg.), Verfassungsentwicklung III, 2021, S. 17

Ehe und Familie nach Art. 24 japanischer Verfassung, in: Rainer Wahl (Hrsg.), Verfassungsänderung, Verfassungswandel, Verfassungsinterpretation, 2010, S. 429

Die Entwicklung der Grundrechtstheorie, in: Rainer Wahl (Hrsg.), Verfassungsänderung, Verfassungswandel, Verfassungsinterpretation, 2010, S. 249

Die verwaltungsgerichtliche Praxis bezüglich der Asyl- und Ausländerproblematik in Japan, in: Klaus Stern

(Hrsg.), Zeitgemäßes Zuwanderungs- und Asylrecht - ein Problem der Industriestaaten, 2003, S. 159

Die Doppelcharakter der Grundrechte aus japanischer Sicht. in: Joachim Burmeister (Hrsg.), Verfassungsstaatlichkeit:

Festschrift für Klaus Stern zum 65. Geburtstag, 1997, S. 875

(李仁森訳)「在外國民選舉權事件大法院判決的意義」月旦法學雜誌二八一期(台灣、二〇一八年)二〇〇頁

共著論文・対談

杉山有沙〓小山剛「憲法具体化法としての生活保護法と裁量統制」憲法理論研究会編『憲法問題の新展開』(敬文堂、

二〇二四年)三二頁

新井貴大〓小山剛「GPS違法捜査事件」小山剛〓川崎政司〓渡井理佳子編『判例から学ぶ憲法・行政法〔第五版〕』

(法学書院、二〇二一年)三四頁

小山剛〓近江美保「座長コメント——国際人權法の課題と展望(国際人權法の存在意義を問う)」国際人權二六号

(二〇一五年)五七頁

小山剛〓二〇一〇年新司法試験合格者「法科大学院の学内試験を考える——教員と学生、それぞれの観点から」法学

セミナー六七二号(二〇一〇年)二九頁

杉原泰雄〓山元一〓小山剛〓工藤達朗〓石村修〓蟻川恒正〓「国家と憲法」研究会「討論(特集 憲法理論の継承と

展開——杉原泰雄憲法学との対話)」法律時報八二巻五号(二〇一〇年)一四頁

樋口陽一〓工藤達朗〓山元一〓小山剛〓栗城壽夫〓石村修〓蟻川恒正〓「国家と憲法」研究会「討論(特集 憲法理

論の継承と展開——樋口陽一憲法学との対話)」法律時報八二巻五号(二〇一〇年)二九頁

佐藤幸治〓蟻川恒正〓山元一〓岩間昭道〓工藤達朗〓小山剛〓「国家と憲法」研究会「討論(特集 憲法理論の継承

と展開——佐藤幸治憲法学との対話)」法律時報八二巻五号(二〇一〇年)四九頁

高橋和之〓小山剛〓工藤達朗〓新井誠〓山元一〓山本龍彦〓蟻川恒正〓「国家と憲法」研究会「討論(特集 憲法理

論の継承と展開——高橋和之憲法学との対話」法律時報八二巻五号(二〇一〇年) 六五頁

金山泰介Ⅱ大沢秀介Ⅱ小山剛ほか「パネルディスカッション(警察政策フォーラム 自由と安全——テロ対策の理論と実務の架橋)」警察政策研究一四号(二〇一〇年) 一五一頁

山野目章夫Ⅱ小山剛「(対談) 民法学からの問題提起と憲法学からの応答——憲法学と民法学の対話(特集 憲法学に問う)」法律時報八一巻五号(二〇〇九年) 一五頁

田村正博Ⅱ大沢秀介Ⅱ小山剛ほか「パネルディスカッション(兼質疑応答)(警察政策フォーラム 市民生活の自由と安全・理論と実務の架橋)」警察政策研究一二号(二〇〇八年) 二〇〇頁

小山剛Ⅱ葛西まゆこ「年金改革関連法と憲法」法学セミナー五九八号(二〇〇四年) 六八頁

井上典之Ⅱ小山剛Ⅱ山元一「第16講 憲法の学び方」井上典之Ⅱ山元一Ⅱ小山剛編『憲法学説に聞く』(日本評論社、二〇〇四年) 二七〇頁

初宿正典Ⅱ小山剛「憲法21条が保障する権利(憲法学説に聞く——ロースクール・憲法講義14)」法学セミナー五八四号(二〇〇三年) 一〇二頁(井上典之Ⅱ山元一Ⅱ小山剛編『憲法学説に聞く』(日本評論社、二〇〇四年) 九六頁再掲)

内野正幸Ⅱ小山剛「社会権の保障(憲法学説に聞く(11)——ロースクール・憲法講義)」法学セミナー五八一号(二〇〇三年) 一〇四頁(井上典之Ⅱ山元一Ⅱ小山剛編『憲法学説に聞く』(日本評論社、二〇〇四年) 一三〇頁再掲)

棟居快行Ⅱ小山剛「経済的自由権と規制(特集 憲法学説に聞く(3)——ロースクール・憲法講義)」法学セミナー五七九号(二〇〇三年) 四四頁(井上典之Ⅱ山元一Ⅱ小山剛編『憲法学説に聞く』(日本評論社、二〇〇四年) 一三三頁再掲)

岩間昭道Ⅱ小山剛「憲法の保障と変動(特集 憲法学説に聞く(2)——ロースクール・憲法講義)」法学セミナー五七三号(二〇〇二年) 五三頁(井上典之Ⅱ山元一Ⅱ小山剛編『憲法学説に聞く』(日本評論社、二〇〇四年)

二四〇頁再掲)

戸波江二＝小山剛「幸福追求権と自己決定権（特集 憲法学説に聞く——ロースクール・憲法講義）」法学セミナー 五六八号（二〇〇二年）二八頁（井上典之＝山元＝小山剛編『憲法学説に聞く』（日本評論社、二〇〇四年）七頁再掲）

三 判例評釈

「NHK受信料制度の合憲性（平成29年12月6日最大判）」『憲法判例百選Ⅰ（第八版）』（有斐閣、二〇二五年）一六四頁（第七版二〇一九年一六七頁）

「私有地における集会の自由と基本権の私人間効——ビール缶・フラッシュモブ決定（NJW 2015, 2485）」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例V』（信山社、二〇二五年）三頁

「第一次スカーフ決定（BVerfGE 138, 296）」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例V』（信山社、二〇二五年）一〇二頁

「最高裁大法廷判決の評価（憲法の視点から）（特集 旧優生保護法に関する最高裁大法廷判決を受けて）」自由と正義九一三号（二〇二五年）一五頁

「私有地における集会の自由と基本権の私人間効力——缶ビール・フラッシュモブ決定（NJW 2015, 2485）（ドイツ憲法判例研究234）」自治研究九六卷一一号（二〇二〇年）一五四頁

「第二次スカーフ決定（BVerfGE 138, 296）（ドイツ憲法判例研究224）」自治研究九六卷一号（二〇二〇年）一四五頁

「平成29年衆議院議員選挙と『一票の較差』」（令和元年度重要判例解説）（有斐閣、二〇二〇年）一六頁

「人としての尊厳（旧優生保護法仙台地裁判決を受けて）」判例時報二四一三・二四一四号（二〇一九年）一七頁

「取材源の秘匿と取材の自由——NHK記者事件（平成18年10月3日最三小決）」『メディア判例百選（第二版）』（有

斐閣、二〇一八年) 四頁

「レーゲンスブルク監視カメラ決定 (BVerfGK 10, 330)」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例Ⅳ』(信山社、二〇一八年) 三四頁

「薬事法違憲判決 (昭和 50 年 4 月 30 日最大判)」棟居快行・工藤達朗・小山剛編『判例トレーニング憲法』(信山社、二〇一八年) 一二五頁

「神戸高専事件判決 (平成 8 年 3 月 8 日最二小判)」棟居快行・工藤達朗・小山剛編『判例トレーニング憲法』(信山社、二〇一八年) 六一頁

「夫婦同氏制を定める民法 750 条の合憲性 (平成 27 年 12 月 16 日最大判)」『平成二八年度重要判例解説』(有斐閣、二〇一七年) 二二頁

「私法関係と基本的人権——三菱樹脂事件 (昭和 48 年 12 月 12 日最大判)」『憲法判例百選Ⅰ (第六版)』(有斐閣、二〇一三年) 二四頁 (第五版二〇〇七年二六頁、第四版二〇〇〇年二四頁)

「職業の自由と規制目的——薬事法違憲判決・西陣ネクタイ事件」棟居快行・工藤達朗・小山剛編集代表『プロセス演習 憲法 (第四版)』(信山社、二〇一一年) 二五六頁 (初版二〇〇四年一二三頁)

「(閔炳老訳)「직업의 자유와 규제목적」法學論叢 (全南大學校法學研究所) 二八卷二号 (韓国、二〇〇八年) 三四五頁

「生存権の法的性格——堀本訴訟・塩見訴訟」棟居快行・工藤達朗・小山剛編集代表『プロセス演習 憲法 (第四版)』(信山社、二〇一一年) 三六八頁 (初版二〇〇四年一三六頁)

「総論」佐藤幸治・土井真一編『判例講義 憲法Ⅰ 基本的人権』(悠々社、二〇一〇年) 一頁 (一四～一五頁を除く)

「トーク・ショーにおける風刺的表現 (NJW 1998, 1386)」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例Ⅲ』(信山社、二〇〇八年) 一四八頁

- 「戦略的監視の限界 (BVerfGE 100, 313)」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例Ⅲ』(信山社、二〇〇八年) 一四七頁
- 「商業的影響のある表現——経済的損失をもたらす研究発表に対する不正競争防止法による規制 ヘルテル判決 (Hertel v. Switzerland) [1998]」戸波江二＝北村泰三＝建石真公子＝小畑郁＝江島晶子編『ヨーロッパ人権裁判所の判例』(信山社、二〇〇八年) 四〇〇頁
- 「精神的原因による投票困難者に対する選挙権行使の機会の保障」受験新報六七五号 (二〇〇七年) 一四頁
- 「NHK番組改編訴訟」受験新報六七四号 (二〇〇七年) 一四頁
- 「旭川市国民健康保険条例事件」受験新報六七三三 (二〇〇七年) 一六頁
- 「病院名に『乳腺』を使用することの禁止の合憲性」受験新報六七二二 (二〇〇七年) 一六頁
- 「公務員の政治活動」受験新報六七一号 (二〇〇七年) 一八頁
- 「取材源秘匿」受験新報六六四号 (二〇〇六年) 一二頁
- 「農作物共済当然加入性と職業の自由」受験新報六六二二 (二〇〇六年) 一六頁
- 「在外国民の選挙権——在外日本人選挙権剥奪違法確認等請求事件」受験新報六六〇号 (二〇〇六年) 一六頁
- 「在外国民の選挙権——在外日本人選挙権剥奪違法確認等請求事件」受験新報六五九号 (二〇〇六年) 二〇頁
- 「第二次堕胎判決 (BVerfGE 88, 203)」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例Ⅱ [第二版]』(信山社、二〇〇六年) 六一頁 (初版一九九九年四六頁)
- 「意見表明の自由と集団の名誉——『兵士は殺人者だ』事件 (BVerfGE 93, 286)」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例Ⅱ [第二版]』(信山社、二〇〇六年) 一六八頁 (初版一九九九年一四九頁)
- 「農作物共済当然加入制と職業の自由 (平成17年4月26日最三小判)」『平成17年度重要判例解説』(有斐閣、二〇〇六年) 一一頁
- 「自己情報コントロール権と住民基本台帳ネットワークからの離脱」受験新報六五五号 (二〇〇五年) 一二頁

「ストーカー規制法の合憲性」受験新報六五三号 (二〇〇五年) 八頁

「外国人の公務就任権——東京都管理職選考受験訴訟上告審判決」受験新報六五〇号 (二〇〇五年) 一二頁

「放送による名誉毀損と訂正放送命令」受験新報六四九号 (二〇〇五年) 一二頁

「取材ビデオテープの押収と取材の自由 (2)——TBS 事件 (平成 2 年 7 月 9 日最二小決)」『メディア判例百選』

(有斐閣、二〇〇五年) 一八頁

「放送による犯罪報道と人格権——レーバッハ判決 (BVerfGE 35, 203)」ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判

例 [第二版]』(信山社、二〇〇三年) 一八三頁 (初版一九九六年一四一頁)

「ハンセン病国家賠償訴訟熊本地裁判決 (平成 13 年 5 月 11 日熊本地判)」ジュリスト二二〇号 (二〇〇一年) 一五二頁

「トーク・ショーにおける風刺的表現 (NJW 1998, 1386) (ドイツ憲法判例研究 79)」自治研究七五卷一〇号 (一九九九年) 一二二頁

「シベリア長期抑留による損害と国家補償 (平成 9 年 3 月 13 日最一小判)」『平成 9 年度重要判例解説』(有斐閣、一九九八年) 一六頁

「中部電力思想差別訴訟 (平成 8 年 3 月 13 日名古屋地判)」法学セミナー五二二号 (一九九八年) 六四頁

「〈判例雑感〉集団の名誉? 第二次『兵士は殺人者だ』事件 (ドイツ連邦憲法裁判所破棄差戻し判決 1995・10・10 決定)」国会月報四四卷四号 (一九九七年) 五四頁

「第二次『兵士は殺人者だ』事件 (BVerfGE 93, 266) (ドイツ憲法判例研究 49)」自治研究七三卷一号 (一九九七年) 一二二頁

「刑法の堕胎罪規定を改正した妊婦及び家族扶助法の合憲性 (第二次堕胎判決) (BVerfGE 88, 203) (ドイツ憲法判例研究 16)」自治研究七〇卷四号 (一九九四年) 一二七頁

「連邦憲法裁判所第二次堕胎判決における保護義務論の展開 (1) [含資料]」名城法学四三三三三三三三 (一九九三年) 八

五頁

四 翻訳

ライナー・ヴァール（小山剛訳）『ドイツ公法の土台としての客観法的次元』ライナー・ヴァール（小山剛）石塚壮太郎監訳『ドイツ憲法の道程』（慶應義塾大学出版会、二〇二二年）一〇九頁

ディートリッヒ・ムルスヴィーク（小山剛訳・解題）「基本権ドグマ・ティクの転換点？」ディートリッヒ・ムルスヴィーク（畑尻剛編訳）『基本権・環境法・国際法』（中央大学出版部、二〇一七年）一九七頁

ライナー・ヴァール（小山剛訳）「建設期における法のメルクマール」ライナー・ヴァール（小山剛監訳）『憲法の優位』（慶應義塾大学法学研究会、二〇一二年）九頁、「社会の変遷——新しい国家任務——法の複合的リアクション」同三八頁、「憲法の優位」同二一五頁

クラウス・シュテルン（小山剛訳）「基本権の保護機能——ある法学的発見（クラウス・シュテルン客員来日記念シンポジウム講演）」日本學士院紀要六四卷三号（二〇一〇年）二七八頁

クラウス・シュテルン（小山剛訳）「憲法の特徴」クラウス・シュテルン（赤坂正浩）片山智彦）川又伸彦）小山剛）高田篤編訳『ドイツ憲法Ⅰ 総論・統治編』（信山社、二〇〇九年）一頁

クラウス・シュテルン（小山剛訳）「過剰侵害禁止（比例原則）と衡量命令」クラウス・シュテルン（井上典之）鈴木秀美）宮地基）棟居快行編訳『ドイツ憲法Ⅱ 基本権編』（信山社、二〇〇九年）三〇五頁

ペーター・J・テッティンガー（小山剛訳）「安全の中の自由」警察学論集五五卷一—号（二〇〇二年）一四四頁
ヨゼフ・イーゼンゼー（小山剛訳）「契約自由と基本権——憲法を規準とした契約の内容統制（特別講演）」名城法学五〇卷三・四号（二〇〇一年）一頁

ライナー・ヴァール（小山剛）中野雅紀訳「〈基調報告〉日本とドイツの比較憲法」ドイツ憲法判例研究会編『人

間・科学技術・環境——日独共同研究シンポジウム」(信山社、一九九九年) 一一頁

クリスティアン・シュタルク(小山剛訳)「基本権保護義務」名城法学四九卷一号(一九九九年) 一八五頁

E・W・ベッケンフェルデ(小山剛訳)「基本権理論と基本権解釈」E・W・ベッケンフェルデ(初宿正典編訳)

『現代国家と憲法・自由・民主制』(風行社、一九九九年) 二七九頁、「基本権の規範的内容をめぐる諸問題」同 三九八頁

ヨアヒム・ブアマイスター(小山剛訳)「〈特別講演〉立法者および専門裁判所に対する連邦憲法裁判所の審査権の限界」名城法学四七卷一号(一九九七年) 一頁

エルンスト・ヴォルフガング・ベッケンフェルデ(小山剛訳)「〈特別講演〉ドイツおよびヨーロッパにおける憲法の歴史的発展と意味変化」名城法学四六卷四号(一九九七年) 一頁(E・W・ベッケンフェルデ(初宿正典編訳)

『現代国家と憲法・自由・民主制』(風行社、一九九九年) 一二九頁再掲

クラウス・シュテルン(小山剛訳)「〈特別講演〉ドイツにおける憲法裁判制度」名城法学四六卷三号(一九九七年) 一頁

クラウス・シュテルン(小山剛訳)「過度の侵害禁止(比例原則)と衡量命令(2・完)」名城法学四四卷三号(一九九五年) 一二五頁

ライナー・ヴァール(小山剛・吉村良一訳)「環境保護と憲法——国家の統制による予防か民事責任法による予防か」立命館法学二二七号(一九九五年) 一七六頁

クラウス・シュテルン(小山剛訳)「過度の侵害禁止(比例原則)と衡量命令(1)」名城法学四四卷二号(一九九四年) 一五三頁

ロベルト・アレクシー(小山剛訳)「主観的権利及び客観規範としての基本権(2・完)」名城法学四四卷一号(一九九四年) 三二一頁

ロベルト・アレクシー(小山剛訳)「主観的権利及び客観規範としての基本権(1)」名城法学四三号四卷(一九九四

年) 一七九頁

マルティン・クリーレ(井田良・小山剛訳)「裁判官の法発見における法律への忠実と正義」法学研究六三卷三三

(一九九〇年) 八九頁

ガボア・ハルマイ(高田篤・小山剛訳)「ハンガリー現行憲法と『新憲法』の構成原理」ジュリスト九四六号(一九

八九年) 六三頁

五 その他

「思考のすゝめ 亀高にて」三色旗八六二号(二〇二五年)

「事の性質——最高裁棄事法判決(私の心に残る裁判例)」Web 日本評論(二〇一九年)

「法学者の本棚 柳田國男 遠野物語——無作法のススメ」法学セミナー七二二号(二〇一九年) 一頁

「書評」国家論の時代への惜別?——林知更『現代憲法学の位相——国家論・デモクラシー・立憲主義』憲法研究

三三(二〇一八年) 二〇九頁

「在天願作比翼鳥」温泉八二卷五号(二〇一四年) 一二二頁

「入れ墨を理由とした先住民族に対する入浴拒否——憲法学から考える」温泉八二卷三号(二〇一四年) 二四頁

「ブックレビュー」曾我部真裕ほか編『憲法論点教室』法学セミナー七〇一号(二〇一三年) 一二三頁

「木村草太著『憲法の急所——権利論を組み立てる』——棋譜で学ぶ実践憲法(LIBRARY)」法学セミナー六八三三

(二〇一二年) 一三一頁

「憲法の季節(巻頭言)」受験新報七〇〇号(二〇〇九年) 五頁

「書評」高橋和之著『立憲主義と日本国憲法』書齋の窓五五三三(二〇〇六年) 五一頁

「書評」松本和彦『基本権保障の憲法理論』(大阪大学出版会、二〇〇一年)「憲法理論研究会編『立憲主義とデモク

ラシー』(敬文堂、二〇〇一年)二六一頁

〔〈法教 Bookshelf〉大石眞著『憲法史と憲法解釈』法学教室二四七号(二〇〇一年)七一頁

日本弁護士連合会人権擁護委員会編(小山剛監修)『人権擁護の最前線——日弁連人権擁護委員会による人権救済』

日本評論社、二〇一五年)

毛利透〓小山剛〓村田尚紀『学界展望 憲法』公法研究八〇号(二〇一八年)二三〇頁

毛利透〓小山剛『学界展望 憲法』公法研究七九号(二〇一七年)二五八頁

新井誠〓岡田順太〓柳瀬昇〓岩切大地〓横大道聡〓小山剛『憲法』判例回顧と展望2011〔法律時報六月臨時増刊〕(日本評論社、二〇一二年)三頁

三宅弘〓小山剛〓中林暁生〓榊原秀訓『公法系科目試験問題(特集 新司法試験問題の検討2011)』法学セミ

ナー六八〇号(二〇一一年)三〇頁

新井誠〓上村都〓岡田順太〓大林啓吾〓横大道聡〓小山剛『憲法』判例回顧と展望2010〔法律時報五月臨時増刊〕(日本評論社、二〇一一年)三頁

斎藤浩〓小山剛〓中林暁生〓榊原秀訓『公法系科目試験問題(特集 新司法試験問題の検討2010)』法学セミ

ナー六六八号(二〇一〇年)三三頁

小山剛〓上村都〓新井誠〓葛西まゆこ〓大林啓吾〓横大道聡『憲法』判例回顧と展望2009〔法律時報五月臨時増刊〕(日本評論社、二〇一〇年)三頁

斎藤浩〓小山剛〓穴戸常寿〓角松生史『公法系科目試験問題(特集 新司法試験問題の検討2009)』法学セミ

ナー六五六号(二〇〇九年)三六頁

小山剛〓小谷順子〓新井誠〓山本龍彦〓葛西まゆこ〓大林啓吾『憲法』判例回顧と展望2008〔法律時報六月臨時増刊〕(日本評論社、二〇〇九年)三頁

小山剛〓小谷順子〓新井誠〓山本龍彦〓葛西まゆこ『憲法』判例回顧と展望2007〔法律時報六月臨時増刊〕

（日本評論社、二〇〇八年）三頁

小山剛＝赤松秀岳「ドイツ法（特集）2001年学界回顧」法律時報七二卷一三号（二〇〇一年）二三八頁

小山剛＝赤松秀岳「ドイツ法（特集）2000年学界回顧」法律時報七三卷一三号（二〇〇〇年）二二八頁

小山剛＝北居功「ドイツ法（特集）1999年学界回顧」法律時報七一卷一三号（一九九九年）二〇六頁